

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	坂本雅俊		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
授業における演習プログラムのテーマは「ソーシャルワークに関する知見」についてである。学生は、社会福祉学の基盤としての「社会科学的認識能力」を身に付けることができる。特に、福祉利用者の実像を知るためにボランティアにでかけ、社会人として必要なパフォーマンスの力を体得する。そのため学生の理解度と興味に合わせて学習素材をその都度提供する。							②④⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	福祉に関する情報を収集する力を付けることができる。また、社会福祉に関する興味ある社会問題を理解し、意見交換として発表する力を身に付けることができる。				授業での意見交換	20%	
コミュニケーション力	ゼミ生同士で友好的人間関係を作る力をもつことができる。				福祉ボランティア研修	50%	
協働・課題解決力	仲間とともに社会問題について考え、協働して課題解決方法を話し、民主的に意見をまとめることができる。				福祉ボランティア研修	30%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の意見を表現し、発表すること。その代表的な場が福祉ボランティア研修である。授業での意見交換をレポートにまとめ提出する。授業での意見交換の内容により 20 点の評価を行う。また、福祉ボランティア研修へ参加することで 80 点の評価を行う。評価内容は、友人や社会人の意見を聴き、多様性を理解し、共生についての理解、そしてそれを言葉と文章で表現する。フィードバックにおいて、これらの意見交換を行い、到達目標の能力ごとに評価する。							
授業の概要							
社会生活上のさまざまな生活問題や課題を毎回のテーマとして与える。テーマに沿って、ICT を用いてゲストと意見交換できる機会を設ける。これを軸として福祉への関心を高め、言葉と文章で意見交換やディスカッションを行った上で、フィールドワークに取り組む。その際、教師が適切に介入して、フィードバックを行うことで、学生のパフォーマンス力の成長を促す。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：中島裕編著 (2017) 『保健医療サービス』 ミネルヴァ書房 参考書：真田是著 (2012) 『著作集』 福祉のひろば 指定図書：関家新助 (2011) 『社会福祉の哲学』 中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
学生だからこそこできる研修を積み上げてほしい。そのことが将来にソーシャルワーカー職に就いたとき、必要な「価値観」を磨くことになる。専門演習は就業生活設計の方向付けに活用して欲しい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	学生同士を知る。ゼミの運営方針を知る。	学修についての前期の計画を共有する。
2	社会福祉のレポートについて①	レポート作成のための資料の検索方法について理解できる。	自分の学修目標を立てる
3	社会福祉の事例研究について②	医療ソーシャルワークの事例研究から、身近な問題を想像する	自分の研究目標を立てる。
4	利用者の暮らしの実態を知る③	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける ゲストとの意見交換	自分の個性について目標を立てて実行する
5	利用者の暮らしの実態を知る④	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の人生目標を立てて実行する
6	利用者の暮らしの実態を知る⑤	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける (フィールドワーク)	自分のボランティア目標を立てて実行する
7	利用者の暮らしの実態を知る⑥	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の単位履修目標を立てて実行する
8	利用者の暮らしの実態を知る⑦	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の生活習慣の目標を立てて実行する
9	利用者の暮らしの実態を知る⑧	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分の将来像について目標を立てて実行する
10	利用者の暮らしの実態を知る⑨	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける (フィールドワーク)	自分のパフォーマンス力 (表現力) を振返る
11	利用者の暮らしの実態を知る⑩	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力 (企画力) を振返る
12	利用者の暮らしの実態を知る⑪	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける ゲストとの意見交換	自分のパフォーマンス力 (発信力) を振返る
13	利用者の暮らしの実態を知る⑫	自分の個性を磨くためのパフォーマンス力を身に付ける	自分のパフォーマンス力 (説得力) を振返る
14	利用者の暮らしの実態を知る⑬	前期を振り返り、ホスピタリティとパフォーマンス力の向上について確認する	資料をまとめる
15	前期のまとめ	振り返りと総括、今後の方向を話し合うことができる	振り返りと発表

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	久田 貴幸		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は、専門演習 B を経て卒業研究へ続く科目である。演習を通して文献の検索方法、論文の読み方や書き方についての力を獲得することを目的とする。授業のねらいとして、福祉における自身の問題意識や課題を整理したうえで文献を読み込み、まとめることで卒業論文を執筆する際のテーマを絞り込んでいくこととする。</p> <p>本演習においては、他者の意見に傾聴し、謙虚に受け入れることができ、自身の考えとの相違を理解したうえで、必要性を検討したうえで論文に取り入れることができるようになることもねらいとする。</p>							①④⑤⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館やデータベースを使用し、関心ある福祉の問題について調べることができる</li> <li>論文を執筆する意義を理解した上で論文とは何かを説明できる</li> <li>インターネットを活用して情報収集ができる</li> </ul>				レジュメ作成 授業での発表	10% 10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心のある福祉の問題について、それまでの背景や現状について説明することができる</li> <li>他者の関心ある福祉領域に対して関心を持って聴くことができ、質問を行うとともに自分の意見を述べるができる</li> </ul>				議論参加 レポート	30% 20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の学生が関心ある福祉の問題にも関心を持ち、議論に参加できる</li> <li>国家試験の概要について他の学生と協働し理解し合うことができる</li> </ul>				議論参加 レポート	15% 15%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業での発表（10%）については、レジュメに沿って聞き手に分かりやすい表現や内容であるか確認しながらフィードバックを行う。レジュメの作成（10%）については、授業発表時に使用するレジュメについて指示された文字数、体裁を守って作成できたかを評価する。議論への参加（45%）については、授業での議論に参加しているか（発表を聴き、発表者の主張を理解できているか、主張への意見を表出できるか）、適宜確認しながらフィードバックも行う。レポート（35%）については、授業内容や教科書の内容を理解し、自分の言葉で説明できているかを評価する。</p>							
授業の概要							
<p>いくつかの書籍や論文を読みながら、研究とは何か、論文とは何かについて学ぶ。発表を通し自分自身が興味ある分野を明らかにしていく。また、自分自身が興味ある分野で最近どのような研究が行われているか、取り組みが行われているかを調べ、発表を行う。さらに、卒業論文作成に向けて資料集めや国家試験学修に着手する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：なし 指定図書：齊藤孝・西岡達裕（2005）『学術論文の技法』日本エディタースクール出版部</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では、卒業論文を執筆するための基本的なルールや流れについて解説・助言を行っていく。また、自分自身の興味ある分野を明確にするために自発的に取り組んでもらうことになる。そのため、受講学生自身でレジュメやレポート、それに基づく発表などが本演習の題材となるため、準備を念入りに行うことを期待している。また、他者との関わりを重視するため、他者と協働して物事に取り組み課題に取り組むことも期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介、演習のねらい、目標、進め方、評価などの確認を行う	(予習) 自分自身の年間スケジュールを計画する (復習) 年間スケジュールを把握する
2	オリエンテーション②	年間スケジュール(前期)を発表し、把握し合う論文とは何か、論文執筆に取り組む意義を学ぶ文献購読に向けた役割を割り振る	(復習) 発表を受け、自分自身の年間スケジュールの修正を行う
3	文献の購読とレジюме作成 1	レジюмеの作成方法を学ぶ。文献を読み、レジюмеを作成する	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
4	文献の購読とレジюме作成 2	レジюмеによる文献の内容と自分の考えの発表、ディスカッションを行う	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
5	文献の購読とレジюме作成 3	レジюмеによる文献の内容と自分の考えの発表、ディスカッションを行う	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
6	文献の購読とレジюме作成 4	レジюмеによる文献の内容と自分の考えの発表、ディスカッションを行う	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
7	文献の購読とレジюме作成 5	レジюмеによる文献の内容と自分の考えの発表、ディスカッションを行う	次回の文献を読み、レジюме作成(発表者)、自分の考えをまとめる
8	文献購読の振り返り	文献の購読を振り返り、関心のある領域を整理する	関心のある領域のキーワードを5~7つに整理する
9	国家試験概要の理解	国家試験の概要について理解する	(予習) 社会福祉振興・試験センターのHPを閲覧し、SW・PSW・CWの概要を整理する
10	情報収集の準備	論文作成における情報収集の方法について学び、収集に着手する	文献を読み、テーマに関する概略的な知識を得る
11	これまでに学んだ知識の確認	キーワードをこれまでに学んできた福祉の知識と関連付ける。論文作成、実習を前に、これまでに学んだ知識を概観する	キーワードと知識を関連付けて整理し、テーマについて、発表準備をする
12	情報収集①	各自が関心ある福祉の問題について、問題の背景と研究テーマを発表し、ディスカッションを行う	研究テーマを明確にする
13	情報収集②	各自が関心ある福祉の問題について、問題の背景と研究テーマを発表し、ディスカッションを行う	研究テーマを明確にする
14	情報収集③	各自が関心ある問題から論文執筆に向けた絞り込みを行う	さらに読むべき文献を整理する
15	まとめ	前期の到達地点と、後期までにすべきことを確認する	今後のスケジュールを確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A(DA301)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習は専門演習 B や卒業研究に続く科目である。演習を通して自分自身で考える力・考えをまとめる力を獲得することを目的とした。</p> <p>福祉分野、特に、介護や保育等を中心とした「ケア」を取り扱い、関連する問題や課題を中心に、文献を読み込み、まとめる。そして、卒業論文を執筆する際のテーマを決める。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている、他の人の意見を傾聴するとともに自分の考えを明確にした上で、活発に意見交換し、相互理解を図ることができるようになることもねらいとした。</p>							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心ある福祉課題について、図書館やデータベースを活用できる</li> <li>・ インターネットを活用して情報収集ができる</li> <li>・ 論文を執筆する意義を説明できる</li> </ul>				レポート 授業での発表	10% 10%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心ある福祉課題の経緯・動向を調べ、述べることができる</li> <li>・ 他の学生が関心ある福祉課題も関心を持って聴き、質問や自分の意見を述べるができる</li> </ul>				レジュメ作成 議論参加	30% 20%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の学生が関心ある福祉課題に関心を持ち、議論に参加できる</li> </ul>				議論参加 レジュメ作成	15% 15%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業での発表：聴き手にも分かりやすい表現や内容であるか、聴き手に伝わりやすいプレゼンであるかについて、適宜確認し評価する。各自へのフィードバックも口頭や提出レジュメに対してコメントする（10%）</li> <li>・ レジュメ：議論のためのレジュメを作成したか。指示された文字数、体裁を守って作成できたか。（45%）</li> <li>・ 議論参加：発表を聴き、発表者の主張を理解できているか、主張への意見を表出できるか、適宜確認する。各自へのフィードバックも演習時間内を中心として行う（35%）</li> <li>・ レポート：授業内容や教科書の内容を理解し、自分の言葉で説明できているかによって評価する（10%）</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前半は、書籍や論文を読み、研究とは何か、論文とは何かを学ぶ。発表を通し自分自身が興味ある分野を明確化する。卒業論文作成において必要となる論文検索などに向けたライブラリーオリエンテーションも実施する。</li> <li>・ 後半は、自分自身の興味ある分野での最新の研究や、取り組みを調べ、発表し、卒業研究のテーマを決定する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</li> </ul>							
教科書・参考書							
教科書：戸山田和久（2012）『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス 参考書：なし 指定図書：ミルトン・メイヤロフ（1987）『ケアの本質』ゆみる出版、外山滋比古（1986）『思考の整理学』							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習では、受講学生自身の興味ある分野を明確にするために自発的に取り組んでもらいます。また、受講学生自身でレジュメやレポート、それに基づく発表等の準備をすることになります。発表レジュメやレポートがないと他者に迷惑をかけることになるため、課題の提出期限を厳守し、真摯に取り組んでくれることを期待します。また、他者との関わりを重視するため、他者と協働して物事に取り組むことも期待します。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 1	自己紹介、演習のねらい・目標、進め方、評価などの確認を行う	(復習)2022年度年間スケジュールを把握する
2	オリエンテーション 2	年間スケジュール(前期)を発表し、把握し合う 論文とは何か、論文執筆に取り組む意義を学ぶ	(予習)自分自身の年間スケジュールを計画する (復習)自分自身の年間スケジュールの修正を行う
3	文献購読 1	レジユメの作成方法を学ぶ。『ケアの本質』を読み、レジユメを作成する。発表分担や役割を決める	(復習)書籍を読み、レジユメ作成(発表者)、自分の考えをまとめる
4	文献購読 2	作成したレジユメを発表し、発表者に対する意見を述べるなどのディスカッションを行う	(予習)分担された発表項目に沿ったレジユメ作成し、提出する (復習)発表されたレジユメ内容、自分の考えを整理する
5	文献購読 3	作成したレジユメを発表し、発表者に対する意見を述べるなどのディスカッションを行う	
6	文献購読 4	作成したレジユメを発表し、発表者に対する意見を述べるなどのディスカッションを行う 文献購読を振り返り、関心のある領域を整理する	
7	ライブラリーオリエンテーション(上級)	図書館にてライブラリーオリエンテーションを受け、論文検索方法を学び実践する	
8	情報収集への準備	ライブラリーオリエンテーションで学んだことを活かし、文献や論文の収集に着手する	(予習)興味のある福祉分野を明らかにする (復習)興味のある福祉分野について情報収集を始める
9	情報収集の実際①	各自で関心のある福祉問題について、問題の背景と研究テーマを発表し、ディスカッションを行う	(復習)研究テーマの整理を始める
10	情報収集の実際②	各自で関心のある福祉問題について、問題の背景と研究テーマを発表しディスカッションを行う	(復習)研究テーマを整理する
11	情報収集の実際③	各自で関心のある問題から、卒業論文執筆に向けた絞り込みを行う	(予習)興味のある分野の研究の現在を調べる (復習)文献を整理する
12	情報収集の実際④	各自の興味・関心のある問題について発表し合う	(予習)発表内容の準備 (復習)他者の発表内容を振り返る
13	卒業研究テーマ設定に向けて①	各自が関心ある福祉の問題について、問題の背景と研究テーマを発表し、ディスカッションを行う	(復習)研究テーマを明確にする
14	卒業研究テーマ設定に向けて②	各自が関心ある問題から論文執筆に向けた絞り込みを行う	(予習)興味ある分野の研究の現在を調べる (復習)さらに読むべき文献を整理する
15	これまでの知識の確認とまとめ	論文作成や実習等を前に、これまでに学んだ知識を概観し、卒業研究のテーマを決定する 前期の到達地点と、後期までにすべきことを確認し、夏季休暇の計画を作成する	(予習)①関心ある領域のキーワードを5つ程度ピックアップする②今後のスケジュールの準備を行う (復習)夏季休暇の計画を完成する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A(DA301)			担当教員	齊藤晋治		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習は、専門演習 B、卒業論文作成へとつながる科目であり、自分自身の社会福祉への興味関心領域を明確にし、各自の研究テーマを決定していく基盤となる科目である。そのため、本演習では、地域の中の様々な課題を発見する力を醸成できること、さらにその課題に対する先行研究の発見、レビューが行えるようになることを目的としている。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館等を活用し、必要な文献の検索をすることができる。</li> <li>文献を比較し、それぞれの文献について説明することができる。</li> </ul>				・文献レビュー	20%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献検索した結果をもとに関心領域について発表することができる。</li> </ul>				ディスカッションへの参加と参加態度	60%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の作成、プレゼンテーションを通して、課題を的確に把握することができる。</li> <li>他者からの意見を聞き、新たな知見として深めることができる。</li> </ul>				・発表	30%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験は行わない。授業内で文献レビュー（20%）それを基にした発表（30%）、ディスカッションへの参加と参加態度（60%）を総合的に評価する。関心領域について、検証、深化させることができたかに比重をおく。なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。							
授業の概要							
自分の社会福祉に関する関心領域について、文献検索、レビューを行い、卒業研究のテーマを具体的にしていく。授業では発表とディスカッションを繰り返す形で行っていく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書：特に指定しない 指定図書：明石芳彦著「社会科学系論文の書き方」ミネルヴァ書房 2018年							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、4年生で作成する卒業論文につながる科目である。各自の研究テーマを発見していくには、自分の中にある疑問を明確化していくこと大切である。そのため、授業では積極的なディスカッションへの参加が求められる。また、発表は順次行っていくため、自分の担当日に欠席することは授業が展開されないことになる。各自が責任を持ちつつ、他者の研究に興味を持ち、互い刺激会い合う関係を期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの年間計画の作成、社会福祉領域に関して理解する。	予習：シラバスの確認 復習：年間スケジュールの作成
2	文献検索の方法の理解	レビューレポート作成のための先行研究の調べ方について理解する。	予習：レビューについての理解 復習：自分の関心領域について整理する
3	レビューレポートのまとめ方の理解	卒論に向けた学習の仕方を理解するとともに、レビューレポートをまとめる方法について理解する。	予習：レビューのまとめ方について理解する 復習：自分の関心領域について調べる
4	研究の領域について考える①	社会福祉の研究領域について理解を深め、自分の関心領域との接点を理解する。	予習：自分の関心領域について文献を調べる 復習：関心領域について確認を行う
5	研究の領域について考える②	研究テーマを検討し、そのテーマの妥当性について意見交換を行う。	予習：研究テーマについて検討する 復習：研究テーマの領域について調べる
6	先行研究を調べレビューする①	研究を始める準備として、関心領域の先行研究について調べ、内容をまとめ発表する。	予習：研究テーマに関する情報収集を行う 復習：研究テーマの状況について復習する
7	先行研究を調べレビューする②	研究を始める準備として、関心領域の先行研究について調べ、内容をまとめ発表する。	予習：研究テーマに関する情報収集を行う 復習：発表した内容、他者からの意見をまとめる
8	先行研究を調べレビューする③	研究を始める準備として、関心領域の先行研究について調べ、内容をまとめ発表する。	予習：研究テーマに関する情報収集を行う 復習：他者からの意見を取り入れ再考する
9	先行研究を調べレビューする④	研究を始める準備として、関心領域の先行研究について調べ、内容をまとめ発表する。	予習：研究テーマに関する情報収集を行う 復習：他者からの意見を取り入れ再考する
10	文献レビュー①	自分の興味関心のある領域に関する文献をレビューし、意見交換を行う。	予習：研究テーマに関する情報収集を行う 復習：他者からの意見を取り入れ再考する
11	文献レビュー②	自分の興味関心のある領域に関する文献をレビューし、意見交換を行う。	予習：研究テーマに関する情報収集を行う 復習：他者からの意見を取り入れ再考する
12	文献レビュー③	自分の興味関心のある領域に関する文献をレビューし、意見交換を行う。	予習：研究テーマに関する情報収集を行う 復習：他者からの意見を取り入れ再考する
13	研究計画書の作成①	研究計画書の理解、研究計画の概要と研究テーマの現状について報告し、ディスカッションする	予習：研究計画書を作成 復習：研究計画書の修正
14	研究計画書の作成②	研究の方法について吟味し、妥当性について検証するとともに、ディスカッションで内容を深める	予習：研究計画書を作成 復習：研究計画書の修正
15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返り、専門演習 B 開始までの課題について理解する。	予習：研究計画書を作成 復習：前期を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	丸山 貴志		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>次年度の卒業研究に向けた基礎と応用力を身につけ、基本的な研究過程を学修する。ソーシャルワークにおいては多職種連携、チーム医療が重要である。本演習では、精神保健福祉の分野で特に精神医学と権利擁護の視点から、様々な精神疾患に伴う精神症状に対して、そこに介入する専門職の医療連携について焦点を当てる。実際の授業では、研究テーマの設定、研究計画作成などを基本から学び基礎知識を身につける。グループディスカッション、プレゼンテーションを授業内に用いて、本学科のディプロマ・ポリシーに挙げられている「コミュニケーション力」「協働・課題解決力」を高める。</p>							④⑤⑥⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	精神保健福祉分野における医療連携についての課題を整理し、情報収集を行い、その課題を分析したうえで要点をまとめることができる。				課題レポート	20%	
コミュニケーション力	自分の研究テーマとして検討している内容を整理し、他者に的確に伝え意見を聞き入れて互いにディスカッションできる。				ディスカッション グループ発表	25% 25%	
協働・課題解決力	テーマに沿ってディスカッションした内容から浮かび上がった課題についてグループで解決策を導き出すことができる。				資料作成 課題レポート	15% 15%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業で得たことを確認するための課題レポートの提出とその内容についての評価 (35%)。テーマに沿ってまとめた発表用の資料作成 (15%)。グループディスカッションとグループ発表が、テーマに沿って的確に行われているかを評価する (50%)。授業への出席状況、授業態度も成績に反映させる。課題レポートについては、次回の授業内でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>本演習はグループディスカッション、資料作成、発表を中心とした授業を展開していく。卒業研究に向けて専門性をより深めたうえで、研究の進め方、研究計画の立て方について学び、各自の興味、関心のある内容からテーマを決め、卒業研究の研究計画の過程で必要となるあらゆる情報収集の方法などを学修していく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：戸田山和久 (2012)「新版論文の教室」NHK 出版  参考書：必要に応じて適宜紹介する。  指定図書：戸田山和久 (2012)「新版論文の教室」NHK 出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では、精神保健福祉の分野から「ソーシャルワーク」や「医療連携」をテーマに、卒業研究に向けた具体的な知識とスキルを習得することを目的としている。そのため、授業外では特にその分野に興味、関心を持ち、日ごろから情報収集を行うことを期待する。授業内では、主体的かつ積極的に授業に参加することで、卒業研究に向けた知識習得を意識するとともに、向上心を持って授業に臨んでほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	シラバスを確認し本演習の目的、内容と進め方の説明を行う。学生間の自己紹介を行う。	予習：シラバスを確認。 復習：授業を振り返り内容把握を行う。
2	ソーシャルワークと精神保健福祉①	精神保健福祉の分野でのソーシャルワークについて理解する。	予習：各自の興味関心を整理しておく。 復習：データを確認する。
3	ソーシャルワークと精神保健福祉②	事例をもとに精神保健福祉の分野でのソーシャルワークについて、現状と課題を学ぶ。	予習：配布資料を読む。 復習：データをまとめる。
4	精神疾患と精神症状①	研究テーマとして興味のある精神疾患について学ぶ。	予習：精神疾患について調べる。 復習：授業内容を振り返る。
5	精神疾患と精神症状②	研究テーマとして興味のある精神疾患の精神症状について学ぶ。	予習：精神症状について調べる。 復習：授業内容を振り返る。
6	研究テーマの選定に向けた分析①	研究テーマとして興味のある精神疾患と精神症状についてまとめて資料を作成する。	予習：授業の内容について調べておく。 復習：資料を整理する。
7	研究テーマの選定に向けた分析②	研究テーマとして興味のある精神疾患と精神症状についてまとめたことを発表する。	予習：発表準備。 復習：授業を振り返る。
8	精神保健福祉法と権利擁護①	精神障害者特有の人権への配慮について、精神保健福祉法に照らして学ぶ。	予習：精神障害者の権利擁護を調べる。 復習：授業を振り返る。
9	精神保健福祉法と権利擁護②	精神障害者特有の人権への配慮について、ディスカッションを行う。	予習：精神障害者の人権についてまとめる。 復習：予習と同じ。
10	テーマ決めとレジュメの作成準備	各自が興味を持った中から検討会で発表するテーマを決める。	予習：各自テーマをしぼる。 復習：テーマについて調べる。
11	テーマ決めとレジュメの作成①	検討会で発表するテーマについての情報収集を行う。	予習：テーマの情報収集。 復習：予習と同じ。
12	テーマ決めとレジュメの作成②	検討会に向けてまとめ、レジュメとプレゼンテーションを作成する。	予習：情報の整理を行う。 復習：授業を振り返る。
13	テーマに沿った検討会①	興味を持っているテーマについて発表し、全体でディスカッションを行う。	予習：発表準備。 復習：予習と同じ。
14	テーマに沿った検討会②	興味を持っているテーマについて発表し、全体でディスカッションを行う。	予習：発表準備。 復習：発表の振り返り。
15	全体の振り返り	これまでの授業内容を振り返り、後期に向けた準備を行う。	予習：資料を整理しておく。 復習：後期の準備を行う。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	大町いづみ		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、研究の意義と目的を理解したうえで、次年度の卒業論文作成に向けて、研究テーマの設定から論文執筆に至る研究プロセスに対する理解を深め、各自の研究テーマを明確にすることを旨とする。本演習では、全世代型地域包括ケアシステム構築に向け「共生」と「予防」をテーマとして地域で生活する人々の生活上の課題について洞察することをディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を通して養う。</p> <p>前期においては、研究デザイン、研究のすすめ方、文献レビューの方法を中心に取り組む。</p>							④⑤⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	テーマに関する文献を検索しレジюмеにまとめて報告することができる。自分の考えを論理的な文章で表現できる。				授業への参加度 課題レポート	10% 15%	
コミュニケーション力	研究テーマに関して、論理的に発表することができる。テーマや課題に関する議論に積極的に参加でき、自分の考えを文章や口頭で表現することができる。				発言内容 ディスカッションへの貢献度	45%	
協働・課題解決力	テーマに関する文献レビューや課題について他のメンバーと協力しながら課題解決に向けて取り組むことができる。				授業への参加度・発言 課題レポート	15% 15%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>発言内容・ディスカッションへの貢献度（45%）、卒論研究に向けて課された課題レポートの内容と論理性（30%）、主体的な授業への参加度（25%）について総合的に評価する。提出された課題や議論内容などに対しては、授業内にフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>研究の意義と目的について理解したうえで研究プロセスの全体像を捉え研究の準備を進められるようにする。各自の興味関心のある研究テーマを見つけ出せるようにしていく。個人ワークやディスカッションを通して、研究デザイン、研究手法、文献レビューの仕方、研究テーマの絞り方を学ぶ。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：指定しない 参考書：必要に応じて適宜紹介する 推薦図書：西村克己（2005）「論理的な考え方が面白いほど身につく本(知りたいことがすぐわかる)」中経出版。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習においては、地域での「共生」「予防」をテーマとした人々の生活上の課題についての研究を進めるための考え方・知識・技術・態度を学ぶことを目的としているが、必ずしも、上記テーマでなくとも、課題解決に向けた基本的な研究方法について理解し、積極的に学びを深めたい学生の履修を希望する。</p> <p>地域での保健・医療・福祉実践に関心を持ち、ボランティア活動や研修に積極的に参加し、地域社会、利用者理解を深め、研究と実践を結び付け、地域に貢献することを意識しながら取り組んでもらいたい。</p> <p>そのために、常に、社会に目を向け、大きな視野で物事を捉え、課題意識を持って自ら行動できるように、積極的に学びを深めてほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介・本演習の目的、到達目標、演習のすすめ方について確認する。 今後の、卒業研究、国試対策、実習等の両立のために各自で目標、計画を立てスケジュール表を作成する。	予習：3年生、4年生のカリキュラム内容の確認をしたうえで、シラバスを熟読する。 復習：関心のあるテーマについての情報を整理する。
2	就職に向けての準備	今後の就職活動に向けての準備、自分自身のキャリアデザインを描くことができるように学内キャリアセンターの活用方法を確認する。	予習：自分自身のキャリアデザインをまとめてみる 復習：キャリアセンターの活用方法について整理する
3	研究の準備①	文献レジュメ作成の方法 プレゼンテーションの作成方法、発表の仕方、ディスカッションの方法などについて学ぶ。 研究のデザインについて学ぶ	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：講義後再度文献を読み、整理しておく。
4	研究の準備②	基本的な研究の進め方について学ぶ 研究デザイン：量的研究 ディスカッションにより理解を深める	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：講義後再度文献を読み、整理しておく。
5	研究の準備③	基本的な研究のすすめ方について学ぶ 研究デザイン：質的研究 ディスカッションにより理解を深める	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：講義後再度文献を読み、整理しておく。
6	研究の準備④	研究計画書の作成方法について学ぶ 基本的な項目の確認と研究概念図の作成について学ぶ	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：講義後再度文献を読み、整理しておく。
7	研究の準備⑤	研究倫理にかかる諸基準と倫理審査申請書の作成方法について学ぶ	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：講義後再度文献を読み、整理しておく。
8	研究テーマの検討①	研究テーマの検討方法について学び、研究仮設を考えてみる。研究を計画通り遂行していくための条件について意見交換を行う。 ※課題レポートの作成	予習：提示する文献を読んでおく。研究仮設を考えておく。 復習：講義後再度文献を読み、整理して課題レポートを作成する。
9	研究テーマの検討①	各自で考えた研究テーマについて発表しディスカッションによりさらに研究テーマについて絞り込む。	予習：わかりやすく伝えることができるように準備しておく。 復習：ディスカッションで出た意見を整理し、さらに、深めたいテーマについて検討する。
10	文献レビュー①	情報収集：文献検索の方法について学ぶ。 オンラインでの文献検索方法について学ぶ。 オンラインファイルを用いた文献の整理方法について学ぶ。	予習：提示する文献を読んでおく。 復習：文献検索システムを使い、関心のある文献を入手し、ファイルにまとめておく。
11	文献レビュー②	文献レビューした結果を発表する（担当者）。 全員で意見交換する。	予習：文献レビューの発表準備をする。 復習：意見交換内容をまとめておく
12	文献レビュー③	文献レビューした結果を発表する（担当者）。 全員で意見交換する。	予習：文献レビューの発表準備をする。 復習：意見交換内容をまとめておく
13	文献レビュー④	文献レビューした結果を発表する（担当者）。 全員で意見交換する。	予習：文献レビューの発表準備をする。 復習：意見交換内容をまとめておく
14	研究テーマの明確化	文献レビューの結果を踏まえて、自身の研究テーマを絞り込む。 全員が発表し意見交換する。 ※課題レポート（研究背景まで記載する）の作成	予習：各自、報告するための準備を行う。 復習：課題レポートを作成する。
15	前期のまとめ	前期の学習内容の振り返りを行い、研究テーマを明確にする。 卒論作成に向けた自己の課題を明確にする。	予習：これまでの演習を踏まえて研究テーマについて再考し、明確にする。 復習：後期に向けて課題解決に向けた準備をする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	大島 啓		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習は A・B は、4 年次開講の「卒業研究」(原則持ち上がり)へと発展していく科目である。本演習では、関心のある社会問題、社会福祉のテーマを選択し、それに関する文献を丁寧に解説することを通じて、現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題の全体像を把握・整理し、資料の作成やプレゼンテーション、ディスカッションを通じて社会の課題に対する思考力、判断力、表現力を涵養することを目標とする。この演習はとりわけ、地域社会や国際社会の多様な課題に対応しうる理論的知識を深める点に特色がある。また卒業論文作成に向け、各自のテーマ設定や論文の書き方についても学ぶ。卒論のテーマ設定については、各自の興味に応じた内容を検討し、絞り込んでいく。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	現代日本社会が抱える様々な(福祉)問題に関する情報を収集し、それを分析して自己や社会の成長に役立つ知見を指摘できる。				・資料作成	10%	
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神に基づいて他の人の意見を傾聴するとともに、文献や資料を正確に読解し、テーマを発見・深めることを通じて、自分の考えを明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。				・授業での発表・グループ討議など 授業への参加	70%	
協働・課題解決力	資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与できる。				・課題提示に対するプレゼンテーション	20%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への出席・参加は当然の評価要件とし、資料の作成(評価比率10%)、プレゼンテーション(評価比率20%)、ディスカッション(評価比率70%)などによって総合的に評価する。資料作成については問題に関する情報を収集し、問題解決の糸口を発見できたかどうかを評価する。プレゼンテーションについては、他人の意見を傾聴し自分の考えを明確にした上で、相互理解を促進できたかどうかを評価する。ディスカッションについては、資料の作成・プレゼンテーションのスキルアップを通じて、課題を的確に把握し、他人と協力して課題解決に向けた立案ができるかどうかを評価する。なお発表内容に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。</p>							
授 業 の 概 要							
<p>授業の進め方は、最初にオリエンテーションを施し、前半は、ゼミ全員で合議の上決定した文献を各自分担の形で発表する。後半は、各自関心があるテーマについて文献を報告し、その過程を通じて、卒論形成の基礎となる学問的作法(問題意識の形成やテーマの絞り方、文献収集や文献の読み込み方、ノートの取り方、文章表現など)を学ぶ。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：『福祉系学生のための 改訂レポート&amp;卒論の書き方』(2005) 川村匡由・川村岳人 中央法規 ※適宜参照する 指定図書：2021 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験過去問一問一答+α 共通科目編</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>卒業論文につながる演習なので、主体的に取り組むことを期待する。取り組みへの積極的態様の有無によって、卒論の出来に差が出てくることが予想される。既存の知識を習得するのではなく、自分で社会や福祉の問題を考えるための貴重な時間なので、資料作成や発表の準備等に積極的に取り組むことを通じて、有意義に過ごしてもらいたい。授業の欠席は、できる限り事前に連絡すること</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション①	自己紹介、演習の進め方の説明、スケジュール確認と文献情報の提供	年間スケジュールを確認する
2	オリエンテーション②	レジュメ作成の方法をレクチャー、例示する レジュメ作成および文献発表の割り振り	割り振りの確認と発表資料の準備をする
3	文献購読①	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
4	文献購読②	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
5	文献購読③	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
6	文献購読④	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
7	文献購読⑤	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
8	文献購読⑥	ゼミで輪読する文献の報告およびディスカッション	報告資料の作成と、全員が該当部分に目を通しておく
9	文献内容についての 意見交換	前回のゼミで報告が終了した文献の全体内容について、 意見交換を行う	各自レポートを作成
10	論文とは何か	『レポート&卒論の書き方』を通じて、論文の書式や論文執筆の作法を学ぶ	該当部分を読んでくる
11	テーマの発掘①	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
12	テーマの発掘②	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
13	テーマの発掘③	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
14	テーマの発掘④	各自が今興味を持っているテーマについて、発表する	報告資料の作成
15	前期のまとめ	前期のまとめと後期に向けての課題設定を行う	後期のスケジュールを確認する

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	柳 智盛		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、様々な障害をもつ方々のことについての理解と援助のための実践力を身につけることを目標とする。特に、近年注目を浴びている発達障害についての理解と援助の方法への知識や実践力を培う。具体的には、自閉症や学習障害、ADHD 等の発達障害についての特徴を学び、その援助の方法論としてのグループ・アプローチを実践的に身につけることを目標とする。また、こうした諸問題に取り組みながら、卒業研究のテーマを絞り込む。こうした過程を経て、本学のディプロマ・ポリシーにある「人間尊重」を基本理念に即した問題解決のための思考・判断をすることができるようになることを目標とする。</p>							⑤、⑦、⑩、⑪、⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	障害児・者に対する支援に関する文献と支援活動での経験を通して、障害児・者への支援に対して指摘できる。				・授業への参加度 ・課題レポート	10% 10%	
コミュニケーション力	障害者に対する理解と支援について、実体験やディスカッションを通して、卒論研究テーマに沿った自分の考えを表現することができる。				・発言内容、独自性 ・ディスカッションへの参加、発言	25% 25%	
協働・課題解決力	障害児・者に対する支援に関する文献と支援活動での経験を通して得られた知見から、障害児・者への支援に寄与することができる。				・授業への参加度 ・課題レポート	10% 20%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション及びディスカッションへの参加姿勢や発言方法・発言内容の適正さ・独自性 (50%)、卒論研究に向けて課された課題レポート提出 (30%)、授業及び支援活動への参加度 (20%) について総合評価する。なお、課題レポートについては、次回の授業で内容をフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>指定文献を各回の担当者がまとめ、発表及び質疑応答のディスカッション形式で進めて各発表について参加者全体での理解を深める。適宜、必要に応じて実際にワークの体験なども取り入れていく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。 参考書：杉山登志郎著 (2007) 『発達障害の子どもたち』講談社現代新書 指定図書：浦上昌則・脇田貴文著 (2008) 『心理学・社会学科研究のための調査系論文の読み方』東京図書</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習において、様々な障害を方々のことについての理解を深めるため文献や各メディアに関心を向けることや、ボランティア活動への参加を積極的に行い実体験としての関わり経験を積んでほしい。特に、毎月実施している自閉症児・者の余暇活動支援グループ「どれみふあくらぶ」に参加することと、特別支援学校での肢体不自由児者への動作法を用いた訓練会に参加することで、理論的理解と実践的援助技術をうまく融合させながら学んでほしい。「どれみふあくらぶ」や「動作法の訓練会」などへのボランティア活動への参加を上記の評価での支援活動として位置付ける。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業の内容、進め方、発表の形式などについての説明	当日の振り返りを行い、発表準備を進めること。
2	発達障害は治るのか	世間に広がる誤解、発達障害と診断された事例について学ぶ。	予：発達障害を理解し、発表の資料を作成すること。 復：発達障害の診断を考える。
3	「生まれつき」か「環境」か①	受精のリスク、生理学的早産、環境の影響を受ける遺伝子、遺伝と環境の関係について学ぶ。	予：遺伝と環境について発表の資料を作成すること。 復：発達障害の捉え方考える。
4	「生まれつき」か「環境」か②	発達障害の概観、個人差と発達障害の違い、発達障害の新たな分類について学ぶ。	予：新しい診断について調べる。 復：担当箇所の発表を準備する。
5	精神遅滞と境界知能	精神遅滞の育ち、境界知能、事例、知能とはについて学ぶ。	予：障害と知能発達について考える。 復：内容を振り返る。
6	自閉症という文化①	自閉症の3つの症状、自閉症者の自伝、自閉症という謎とその答えについて学ぶ。	予：自閉症について考える。 復：内容を振り返る。
7	自閉症という文化②	自閉症の体験世界、自閉症的認知と自閉症の「認知の穴」、自閉症への治療教育について学ぶ。	予：自閉症の治療教育を理解する。 復：内容を振り返る。
8	アスペルガー問題①	アスペルガー症候群の再発見、ADHD との誤診、高機能広汎性発達障害の育ちについて学ぶ。	予：アスペルガー症候群について考える。 復：諸知識を理解する。
9	アスペルガー問題②	さまざまな併発症、犯罪歴、18歳以上の発達障害、成人後の状況を決めるものについて学ぶ。	予：該当箇所を読み、発表の資料を作成すること。 復：事例を探し理解する。
10	ADHD と学習障害	ADHD とは、ADHD の育ちと対応のコツ、学習障害とは、学習障害への対応について学ぶ。	予：対応や接し方について考える。 復：事例を探し理解する。
11	障害児者への理解①	障害児者への理解を深めるため、支援活動を企画・開催のためのディスカッションを行う。	予：障害児者の支援活動について考える。 復：活動の意義について理解する。
12	障害児者への理解②	障害児者への理解を深めるため、支援活動を企画・開催のためのディスカッションを行う。	予：障害児者の支援活動について考える。 復：活動の意義について理解する。
13	文献発表・ディスカッション①	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してこること。 復：内容を振り返る。
14	文献発表・ディスカッション②	発表者による、関心のあるテーマについての発表と質疑応答を行う。	予：関心のある文献を予約してこること。 復：内容を振り返る。
15	前期のまとめ	卒論研究テーマに関連づけて前期の振り返りを行い、未習熟な部分を補完する。	予：前期を振り返り、発表の資料を作成すること。 復：講義全体を振り返る。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	梅野 潤子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習では、4年次の卒業論文作成を見据え、研究テーマの設定から論文執筆に至る研究過程の全体像に対する理解を深めた上で、各自の研究テーマを設定することを目指す。本演習においては、児童福祉・児童ソーシャルワークに焦点を当て、子どもに関する社会問題・生活問題を洞察し、批判的に検討し、自分の意見を文章によって表現する訓練を行う。そのために必要とされる思考力・判断力・表現力を、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーション等の参加型学習を通して養う。</p> <p>前期においては、研究過程の理解や文献レビューの方法の習得を中心に取り組む。</p>							④⑤⑦⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	自身の研究テーマに関連する実践や政策の動向を理解し、説明することができる。				小レポート		5%
情報収集、分析力	児童福祉・児童ソーシャルワークに関する文献と実践経験を通じて、児童福祉実践の現状と課題を整理することができる。				授業への参加度 課題レポート		10% 10%
コミュニケーション力	自身の研究テーマに関して、文献レビューの報告やディスカッションを通じて、自分の考えを文章や口頭で表現することができる。				発言内容 ディスカッションへの貢献度		20% 20%
協働・課題解決力	児童福祉・児童ソーシャルワークに関する文献レビューや実践経験を統合し、実践をよりよくするための課題に取り組み、提言することができる。				授業への参加度 課題レポート		15% 15%
多様性理解力	子どもが置かれている多様な生活状況について理解することができる。				小レポート		5%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業中の発言内容・ディスカッションへの貢献度（40%）、卒論研究に向けて課された小レポート・課題レポートの書き方や内容の適切さ（35%）、主体的な発言や取組等の授業への参加度（25%）について総合的に評価する。授業中の私語や遅刻・欠席、課題の提出遅れ等は、減点対象となるため注意されたい。小レポート・課題レポートについては、次回の授業において内容をフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>研究プロセスの全体像を概観した上で研究への準備を行い、各自の研究テーマを設定し、絞り込むために文献レビューを行う。教科書に沿って授業を展開し、個人ワークやグループディスカッションを通して、文献レビューの仕方、研究テーマの絞り方を学ぶ。12回から14回においては、各自で入手した文献のレビュー結果について各回の担当者が資料を作成した上で報告し、質疑応答やディスカッションを行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：梅野潤子（2013）『研究ってなんだろうーはじめて取り組むあなたのための論文作成ノートー』高学出版。 参考書：必要に応じて適宜紹介する。 指定図書：ピーター・フランクル（1997）『ピーター流らくらく学習術』岩波書店。 池上彰（2007）『ニュースの読み方使い方』新潮社。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習においては、児童福祉・児童ソーシャルワーク研究を進めるための考え方・知識・技術を学ぶことを目的としている。そのため、子どもに関する社会問題・生活問題に対する理解を深めるために、日頃から文献やニュース等の情報に関心を持ち、情報収集に努めることが期待される。</p> <p>また、児童福祉実践に関心を持ち、ボランティア活動に積極的に参加する等、現場における実践経験を積むことも重視する。児童福祉・児童ソーシャルワーク研究は、現場の実践をよりよくするために行われる社会的営みであることを十分理解した上で、受講生には実践と研究を結びつけることを意識しながら取り組んでもらいたい。</p> <p>なお、本演習では児童福祉・児童ソーシャルワークにおける研究方法を学ぶため、これらの分野を専門的に学ぶことを希望する学生の履修を期待する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の目的と授業計画の説明を行う。 受講生の自己紹介、関心のあるテーマ等について発表する。	予習：シラバスを熟読し、自己紹介の内容を準備する。 復習：関心のあるテーマに関する新聞記事を検索する。
2	研究について考えよう①	研究の意義について考える。 受講生同士で、研究の意義に関する意見交換を行う。	予習：教科書1章1節を読み、研究の意義を理解する。 復習：研究の意義について自分の考えをまとめる。
3	研究について考えよう②	一般的な研究の進め方について学ぶ。 研究プロセスの各段階の留意点について理解することができるように、解説及び意見交換を行う。	予習：教科書1章2節を読み、研究の進め方を理解する。 復習：研究のプロセスについて理解したことを文章化する。
4	研究の準備をしよう①	研究を始めるための準備として、自立学習の仕方を理解し、研究環境の振り返りを行う。 各自の研究環境に関する一覧表やマップ作成を行い、受講生同士で共有する。	予習：教科書1章3節1,2を読む。 復習：教科書p.23に従って自身の研究環境を整える。
5	研究の準備をしよう②	ゼミ活用法として、ゼミの目的や学習効果を高めるためのポイントについて学ぶ。 グループディスカッションを行う際の問題への対処法について、意見交換を行う。	予習：教科書1章3節3を読む。 復習：ディスカッションを行う際の自分の役割について振り返る。
6	研究の準備をしよう③	研究指導の活用方法について解説する。 指導者からのフィードバックの受け方・活用の仕方について意見交換を行う。	予習：教科書1章3節4を読む。 復習：フィードバックを活用する際の自身の課題を考える。
7	研究テーマを考えよう①	研究テーマの決め方について理解した上で、研究テーマのヒントとなる各自の関心を探り、意見交換を行う。	予習：教科書2章1節を読む。 復習：関心のあるテーマを考え、教科書p.49, 52に記入する。
8	研究テーマを考えよう②	研究テーマの絞り方について学び、研究テーマを設定する上での諸条件について各自で考える。 ※小レポートの提示	予習：教科書2章1節を読む。 復習：小レポートを作成する。
9	先行研究のレビュー①	先行研究のレビューの目的・方法・手順等について学ぶ。 研究テーマに関するキーワードをについて考える。	予習：教科書2章2節1,2,3を読む。 復習：教科書p.55にキーワードを記入する。
10	先行研究のレビュー②	文献検索の方法について学ぶ。 オンライン文献検索システムを活用し、文献検索を体験する。	予習：教科書2章2節pp.56-59を読む。 復習：文献検索システムを使い、関心のある文献を入手する。
11	先行研究のレビュー③	参考文献の書き方、文献の読み方、レビューノートの書き方を学ぶ。 各自で入手した文献を用いて、レビューを行う。	予習：入手した文献を読む。 復習：文献レビューノートを作成する。
12	文献レビューの報告①	受講生同士で、各自が文献レビューした結果を報告し合い、意見交換をする。 文献レビューの結果を踏まえて、さらに読んでみたい文献を調べる。	予習：文献レビューの結果を報告するための準備を行う。 復習：文献レビューノートを作成する。
13	文献レビューの報告②	受講生同士で、各自が文献レビューした結果を報告し合い、意見交換をする。 文献レビューの結果を踏まえて、さらに読んでみたい文献を調べる。	予習：文献レビューの結果を報告するための準備を行う。 復習：文献レビューノートを作成する。
14	文献レビューの報告③	受講生同士で、各自が文献レビューした結果を報告し合い、意見交換をする。 文献レビューの結果を踏まえて、自身の研究テーマを絞り込む。※課題レポートの提示	予習：文献レビューの結果を報告するための準備を行う。 復習：課題レポートを作成する。
15	前期のまとめ	前期の学習内容の振り返りを行い、現時点での研究テーマを設定する。 夏季休暇中に読む文献リストを作成し、計画を立てる。	予習：これまでの文献レビューを踏まえて研究テーマについて再考し、教科書p.52に記入する。 復習：リストアップした文献を入手する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A(DA301)			担当教員	脇野 幸太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
「ソーシャルワークと社会保障」をテーマとして、社会保障の諸制度についての検討、社会保障の課題・問題点の検討、ソーシャルワークの実践と社会保障制度の関係（福祉現場における制度の活用のあり方）の検討などを通じて、ソーシャルワーク実践における社会保障制度理解の重要性について認識できるようになることを目標とする。これらを通じて、後期B以降の卒業論文作成（テーマ設定およびその後の研究）に向けた基礎固めを行う。							⑤⑥⑦⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の諸制度について説明できる。</li> <li>・卒業研究の意義について説明できる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表レジュメ（制度説明的 確性・正確性）</li> <li>・議論での発言</li> </ul>		
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の見解をレジュメにまとめて報告することができる</li> <li>・自分の見解を的確かつ論理的な文章で表現することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表レジュメ（自身の見解がまとめられているか）</li> <li>・議論での発言</li> </ul>	10%	10%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるテーマや課題に関する議論に積極的かつ適切に関与することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論での発言</li> </ul>	50%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あるテーマや課題について、他のメンバーと協働しながら、その解決策を模索することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論での発言</li> </ul>	30%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見を傾聴し、それに基づく議論をすることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論での発言</li> </ul>		
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題の準備・提出状況や内容（発表レジュメ）20%、およびゼミ内での議論での発言80%で評価する。提出された課題や議論の内容などに対しては、授業内でコメントをする形でフィードバックを行う。 評価基準は長崎国際大学の成績評価基準に準拠する。							
授業の概要							
社会保障（社会保障とは何か、年金、医療保険、介護保険、雇用保険、労災保険、障害者総合支援法、社会手当制度、生活保護制度等々）とその問題点、ソーシャルワーク実践と社会保障とのかかわりなどについて、各自に課題を割り振ったうえで、その課題について皆でディスカッションを行う。その積み重ねの中で、各自の関心や、それに応じた卒業研究のテーマが見つけれせるようにしていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：授業時に指示する。 参考書：「厚生労働白書 令和3年版」 指定図書：根岸・三輪・増田編『変わる福祉社会の論点（第3版）』（信山社・2021）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
「社会保障」をゼミの基盤に置くが、卒業研究のテーマは必ずしも社会保障に関したものでなくてもかまわない。また、高齢者、児童、障がい者、地域など、社会福祉のいずれの分野でもかまわない。ただし、どのようなテーマを選ぶにしても、社会保障の制度理解は必ず必要となるので、そのことを理解し、積極的にゼミ運営にかかわってくれる人の参加を希望する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介・1年間のゼミ運営の内容や到達目標の確認・演習の進め方についての確認。卒業研究と国試対策を両立させるための今後2年間のスケジュールの作成。	卒論作成を含めた向こう2年間の予定を考えておく。
2	準備	・レジュメ作成の仕方、プレゼンテーション（発表）の仕方、ディスカッションの仕方などについての確認。 ・各自のテーマ設定と割り振り。	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
3	文献購読①	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 1 医療保険	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
4	文献購読②	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 1 医療保険（つづき）	予習：指定文献を読む。 年金についての情報収集 復習：議論を踏まえ、再度指定文献を読む。
5	文献購読③	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 2 介護保障	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
6	文献購読④	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 3 年金	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
7	文献購読⑤	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 3 年金（つづき）	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
8	文献購読⑥	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 4 児童福祉	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
9	文献購読⑦	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 5 障害者福祉	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
10	文献購読⑧	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 6 社会福祉	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
11	文献購読⑨	担当者によるレジュメ作成、発表、全員による討議。 社会保障に関する文献 7 生活保護	予習：指定文献を読む 復習：議論、説明を踏まえ、再度指定文献を読む。
12	レポート作成準備	卒業研究のテーマ設定を見据えながら、レポートのテーマ、構成について、全員が発表し、討議を行う。	次回に備え、自分が作成しようとするレポートの内容・構成を考えておく。
13	図書館オリエンテーション	卒業研究における図書館活用の方法について学ぶ。	レポート作成。
14	レポート発表	レポートの内容発表とディスカッションを行う。	ゼミでの指摘を踏まえ、レポートを再読し、修正する。
15	省察・まとめ	前期の省察とまとめ。卒論作成への認識の再確認。	後期に向け、卒業研究のテーマをよく考えておく。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A(DA301)			担当教員	妻 孝承		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>の授業では、次年度の卒業研究に向けて、「ソーシャルワーク」および「高齢者福祉」を中心に研究の基礎を学びながら論文執筆に必要な能力を高めていくことをねらいとする。</p> <p>授業の方法については、学生の興味・関心のある社会問題を中心に、文献検索・読書・資料作成・発表・ディスカッションを行っていく。なお、「専門演習」はA・Bと通年科目である。</p>							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力							
情報収集、分析力	与えられた課題に対し、適切な方法にて情報収集を行うとともに、情報を十分に分析し、自分の考えを論理的にまとめることができる。				課題の達成度 発表・ディスカッションでの発言内容		10% 10%
コミュニケーション力	自分の意見、他者の意見を適切に交換させていながら、互いに成長し合う関係を築くことができる。				課題の達成度 発表・ディスカッションでの参加姿勢		25% 25%
協働・課題解決力	与えられた課題に対し、メンバーと協働して適切な解決策を導き出すことができる。				課題の達成度 発表・ディスカッションでの貢献度		15% 15%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題の達成度 (50%) : レポート課題 (Word : おおよそ A4 で 1~2 枚程度 : 5 回) にて評価を行う。</p> <p>発表・ディスカッションでの発言内容 (10%)、参加姿勢 (25%)、貢献度 (15%) : 発表・ディスカッション (5 回) で、どのような内容の発言をしたのか、また、どのくらいコミュニケーションを図って参加したのか、話し合いにどの程度貢献したのかを評価する。</p> <p>フィードバック : 課題や発表・ディスカッションに関する評価のフィードバックは、授業中もしくはポートフォリオを活用し評価・解説する方法を用いる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業のねらいは、「ソーシャルワーク」および「高齢者福祉」の実証的研究をベースに、研究の基礎を学びながら論文執筆に必要な能力を高めていくことである。そのため、学修者個々人が興味・関心を抱く社会問題について、情報を集め、分析し、発表やディスカッションを行いながら、互いに知見を広げて成長していけるような授業を展開していく。なお、授業以外にボランティア活動にも参加することを求める。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書 : 特に指定しない (授業中に資料を配布する)</p> <p>参考書 : 高齢社会白書 (2022) 『内閣府』</p> <p>指定図書 : 高齢社会白書 (2022) 『内閣府』</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものであることから、先のことを見据え、遠慮や謙遜をせず、お互いに自由に活発な時間が過ごせるよう、「意欲」と「協調」をもって参加されることを期待する。また、ボランティア活動への積極的な参加を期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	自己紹介、シラバス確認する、ゼミメンバーの関心について共有する。	復習：自分の関心テーマの整理。
2	研究とは	担当教員の研究を共有しながら、分析などを通して体験的に学ぶ。特に実証的研究について学ぶ	復習：研究論文の概要をノートに整理。
3	研究論文とは	研究論文の概要（書き方、注意事項、作業工程等）を説明する。	復習：課題を提出する。
4	キャリア検討	企業説明会に参加し、自分のキャリアをイメージする。	復習：自分のキャリアに関して考える。
5	研究テーマ探索①	自分自身の関心事を列挙し、研究論文のテーマに相応しいものを1つ選択する。また、関連文献を一つ以上準備する。	復習：設定したテーマに関連する文献を探す。
6	研究テーマ探索②	図書館ツアー：文献や先行研究レビューの方法について学修し、研究の準備を行う。	復習：文献・先行研究レビューの方法をノートに整理。
7	社会活動①	社会活動（ボランティア、見学）を通して、自分の関心テーマの理解を深める。	予習：活動の意味について調べる。 復習：振り返りシートを提出する。
8	文献購読①	「自分の関心事」をテーマにして、そのことに関する知見を拡げるため、各々が1冊の本（厚生労働白書等）を選定し、熟読する。	予習：「自分の関心事」に関するレポート作成。 復習：選択図書熟読。
9	文献購読②	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをレポートにまとめる。	予習：選択図書熟読、レポート作成。発表準備。 復習：予習と同じ。
10	文献購読③	各々がまとめてきたレポートの発表（5分程度）を行い、その後ディスカッションを行う。	予習：発表準備。 復習：発表の振り返りレポートの作成。
11	文献購読④	「自分の関心事」をテーマにして、そのことに関する知見を拡げるため、各々が1冊の本（厚生労働白書等）を選定し、熟読する。	予習：「自分の関心事」に関するレポート作成。 復習：選択図書熟読。
12	文献購読⑤	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをレポートにまとめる。	予習：選択図書熟読、レポート作成。発表準備。 復習：予習と同じ。
13	文献購読⑥	各々がまとめてきたレポートの発表（5分程度）を行い、その後ディスカッションを行う。	予習：発表準備。 復習：発表の振り返りレポートの作成。
14	社会活動②	社会活動（ボランティア、見学）を通して、自分の関心テーマの理解を深める。	予習：活動の意味について調べる。 復習：振り返りシートを提出する。
15	卒業研究中間報告会への参加全体の振り返り	卒業研究中間報告会に参加した後、これまでまとめてきたレポートを振り返り、「自分の関心事」とその知見を整理する。	復習：これまでのレポートの整理。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	野田 健		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この授業は、社会福祉学的視点から「ホスピタリティとは何か」という問いを持つことから始まり、地域社会に貢献しうる自己を確立するため、「福祉哲学」「相談援助」「社会貢献」を学修の柱に据え、福祉マインドの醸成を図ることをねらいとする。授業の方法については、本学のディプロマ・ポリシーにある「人間尊重」を基本理念に、自己研鑽を継続的に行う能力（ホスピタリティを構成する能力）を高めるため、各人の興味・関心のある社会問題を中心に、文献検索・読書・資料作成・発表・ディスカッションを行っていく。なお、「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものである。							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力							
情報収集、分析力	与えられた課題に対し、適切な方法にて情報収集を行うとともに、情報を十分に分析し、自分の考えを論理的にまとめることができる。					課題の達成度 発表・ディスカッションでの発言内容	10% 10%
コミュニケーション力	自分の意見、他者の意見を適切に交換させていながら、互いに成長し合う関係を築くことができる。					課題の達成度 発表・ディスカッションでの参加姿勢	25% 25%
協働・課題解決力	与えられた課題に対し、メンバーと協働して適切な解決策を導き出すことができる。					課題の達成度 発表・ディスカッションでの貢献度	15% 15%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題の達成度 (50%) : レポート課題 (Word : おおよそ A4 で 1~2 枚程度 : 5 回) にて評価を行う。</p> <p>発表・ディスカッションでの発言内容 (10%)、参加姿勢 (25%)、貢献度 (15%) : 発表・ディスカッション (5 回) で、どのような内容の発言をしたのか、また、どのくらいコミュニケーションを図って参加したのか、話し合いにどの程度貢献したのかを評価する。</p> <p>フィードバック : 課題や発表・ディスカッションに関する評価のフィードバックは、授業中もしくはポートフォリオを活用し評価・解説する方法を用いる。</p>							
授業の概要							
<p>この授業のねらいは、「相談援助論」と「福祉哲学」をベースに、福祉マインドを醸成していくことにある。そのため、学修者個々人が興味・関心を抱く社会問題について、情報を集め、分析し、発表やディスカッションを行いながら、互いに知見を広げて成長していけるような授業を展開していく。なお、授業以外にボランティア活動にも参加することを求める。なお、授業の案内や課題提示等はポートフォリオを活用する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書 : 授業中に資料を配布する</p> <p>参考書 : 高根正昭 (2003) 『創造の方法学』 講談社 (論理的思考の習得のために活用)</p> <p>指定図書 : 厚生労働省編『厚生労働白書』日経印刷株式会社 等の政府刊行物 ※ 発行年問わず</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「専門演習」はA・Bと通年科目であり、かつ「卒業研究」につながっていくものであることから、先のことを見据え、遠慮や謙遜をせず、お互いに自由に活発な時間が過ごせるよう、「意欲」と「協調」をもって参加されることを期待する。また、ボランティア活動への積極的な参加を期待する。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	講義計画の概要の紹介、学習方法（レポートの作成の仕方、報告やディスカッションの仕方）に関する説明を行う。その他、ルーブリック評価を実施する。	復習：レポートの書き方等をノートに整理。
2	研究論文とは	研究論文の概要（書き方、注意事項、作業工程等）を説明する。	復習：研究論文の概要をノートに整理。
3	研究のテーマの仮決め①	先輩方の研究論文レビューを行い、研究論文の目標（ゴール）を理解する。また、自分自身の関心事を列挙し、研究論文のテーマに相応しいものを検討する。	復習：自分の関心事を列挙し、それらについて情報収集。
4	研究のテーマの仮決め②	自分自身の関心事を列挙し、研究論文のテーマに相応しいものを1つ選択する。	復習：設定したテーマに関心を向けた理由を整理。
5	文献・先行研究レビューの方法	文献や先行研究レビューの方法について学修し、研究の準備を行う。	復習：文献・先行研究レビューの方法をノートに整理。
6	「100冊読書」①-1 2冊を熟読・レポート作成	「自分の関心事」をテーマにして、そのことに関する知見を広げるため、各々が1冊の本（厚生労働白書等）を選定し、熟読する。	予習：「自分の関心事」に関するレポート作成。 復習：選択図書熟読。
7	「100冊読書」①-2 2冊を熟読・レポート作成	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをレポートにまとめる。《ポートフォリオによる課題提出②》	予習：選択図書熟読、レポート作成。発表準備。 復習：予習と同じ。
8	「100冊読書」①-3 2冊の本を紹介	各々がまとめてきたレポートの発表（5分程度）を行い、その後ディスカッションを行う。《発表・ディスカッション③》	予習：発表準備。 復習：発表の振り返りレポートの作成。
9	「100冊読書」②-1 2冊を熟読・レポート作成	「自分の関心事」をテーマにして、そのことに関する知見を広げるため、各々が1冊の本（厚生労働白書等）を選定し、熟読する。	予習：「自分の関心事」に関するレポート作成。 復習：選択図書熟読。
10	「100冊読書」②-2 2冊を熟読・レポート作成	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをレポートにまとめる。《ポートフォリオによる課題提出③》	予習：選択図書熟読、レポート作成。発表準備。 復習：予習と同じ。
11	「100冊読書」②-3 2冊の本を紹介	各々がまとめてきたレポートの発表（5分程度）を行い、その後ディスカッションを行う。《発表・ディスカッション④》	予習：発表準備。 復習：発表の振り返りレポートの作成。
12	「100冊読書」③-1 2冊を熟読・レポート作成	「自分の関心事」をテーマにして、そのことに関する知見を広げるため、各々が1冊の本（厚生労働白書等）を選定し、熟読する。	予習：「自分の関心事」に関するレポート作成。 復習：選択図書熟読。
13	「100冊読書」③-2 2冊を熟読・レポート作成	前回の授業に引き続き、本をさらに1冊選定して熟読し、その本から学び得たことをレポートにまとめる。《ポートフォリオによる課題提出④》	予習：選択図書熟読、レポート作成。発表準備。 復習：予習と同じ。
14	「100冊読書」③-3 2冊の本を紹介	各々がまとめてきたレポートの発表（5分程度）を行い、その後ディスカッションを行う。《発表・ディスカッション⑤》	予習：発表準備。 復習：発表の振り返りレポートの作成。
15	卒業研究中間報告会への参加全体の振り返り	卒業研究中間報告会に参加した後、これまでまとめてきたレポートを振り返り、「自分の関心事」とその知見を整理する。《ポートフォリオによる課題提出⑤》	復習：これまでのレポートの整理。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 A (DA301)			担当教員	韓 榮芝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、東アジア、主に日本や中国の地域における社会現象、地域問題について共通認識・理解を高めるために、どのような観点から、どのような方法(調査)で、実証研究を進めていくのか、先行事例を通して、コミュニティ・ソーシャルワークへの理解を深めることを目標とする。少人数のゼミ形式を中心に取り組む(佐世保地域の小規模多機能ホームや社協などのフィールドワークを通じて)ことにより、4年制大学生としての教養と応用力(社会人基礎力)を身につけることができる。							①②③④⑤⑥ ⑦⑧⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域全般の福祉課題を積極的に取り組むことができる。				授業態度・活動への参加	5%	
情報収集、分析力	アジア諸国の社会情勢を踏まえた上で日本の地域課題を的確に把握することができる。				レポート	20%	
コミュニケーション力	福祉専門的な技術・技能を活用した取り組みに参加できる。				レポート プレゼン	10% 30%	
協働・課題解決力	福祉専門職種のそれぞれの役割を理解できる。				レポート 発表・質疑応答	10% 20%	
多様性理解力	福祉社会の基本理念や歴史の流れを理解し、説明することができる。				出席カードコメント欄の内容	5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
まず授業への参加は評価要件とする。レジュメの作成、発表・討論等(50%)、レポート(40%)などによって総合的に評価する。レポート、プレゼンテーションのフィードバックは授業内に行う。授業毎回において、レスポンスカードを配布し、記入して提出すること、授業への参加意欲を評価する材料とする(出席状況も含む10%)。レポートは計4回。与えられたテーマについて文献・資料を探し出し、リサーチの結果をまとめて提出すること。最終回に、半年間の学習を通して、関心あるテーマを1つ選び発表し討議すること(1人で発表15分、討議15分程度)。							
授業の概要							
日本の社会福祉分野においては、近年東南アジアに関する研究は益々必要とされる。そのために、ソーシャルワークの視点でコミュニティを拠点に日・中両国の社会保障・社会福祉(社会的セーフティネット)を推進していく考えを念頭に、福祉先進諸国の福祉について学ぶ。その上で、各自で課題を発見し、関連の文献・資料を探し出し、研究成果をまとめる。授業の進め方は、各自の課題について研究成果をまとめて報告し、討論を行っていく。その中で各自の関心課題を煮詰めて絞っていく。その上で卒業論文につながるような関心・課題を見つけていくこと。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分とする。							
教科書・参考書							
教科書：指定なし 参考書：「レポート・論文の書き方入門」(単行本) 河野 哲也著 慶応義塾大学出版会、 「レポート・試験はこう書く 新・社会福祉要説」 中島恒雄著 ミネルヴァ書房必要に応じ指示する 指定図書：①「コミュニティ・ソーシャルワーク」平成23年度・平成24年・平成25年 日本地域福祉研究所発行 ②「社会福祉の国際比較—研究の視点・方法と検証」阿部 志郎、井岡 勉(2000/4) 有斐閣出版社							
授業外における学修及び学生に期待すること							

国際比較研究を進めるために、社会調査の方法（フィールドワーク）についてしっかり勉強しておく。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	授業の進め方及び年間スケジュールの把握。	シラバスを読む
2	文献収集・資料の分析	研究文献の収集方法を理解する。	授業内容の振り返りと配布資料の精読
3	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	レポート作成要領の纏めと与えられた文献をレジュメする
4	レジュメ作成と発表方法	レジュメ及びパワーポイントの作成について学ぶ。	授業内容の復習と先行文献の精読を行う
5	各国の福祉制度研究（1） -1	福祉先進国日本の地域福祉についての文献を講読する。	授業内容の振り返りと次回討議課題の整理を行う。
6	各国の福祉制度研究（1） -2	福祉先進国日本の地域福祉についての文献を討議する。	討議内容のまとめとレポートの作成、発表の準備
7	レポートの提出	研究成果レポートを提出、発表する。	レポート執筆の振り返りと次回授業内容の精読
8	各国の福祉制度研究（2） -1	福祉国家イギリスの地域福祉についての文献を講読する。	授業内容の振り返りと次回討議課題の整理を行う。
9	各国の福祉制度研究（2） -2	福祉国家イギリスの地域福祉についての文献を討議する。	討議内容のまとめとレポートの作成、発表の準備
10	レポート提出	研究成果レポートを提出、発表する。	レポート執筆の振り返りと次回授業内容の精読
11	各国の福祉制度研究（3） -1	中国の社会福祉制度政策についての文献を講読する。	授業内容の振り返りと次回討議課題の整理を行う。
12	各国の福祉制度研究（3） -2	中国の社会福祉制度政策についての文献を討議する。	討議内容のまとめとレポートの作成、発表の準備
13	レポート提出	研究成果レポートを提出、発表する。	レポート執筆の振り返りと次回の総括発表のレジュメ作成
14	研究発表	作成したレポートの中から、最も関心のあるテーマを1つ選んで口頭発表を行う。	発表内容の振り返りと課題に即した先行文献を検索する
15	総括	半年間の先行研究のまとめ及び夏休みの課題を見つける。	夏休みの取り組みに向けて